

2022年 年頭所感

理事長 松木 健一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年も箱根路を駆け抜けるS字のユニフォーム姿を見ることができました。今回、本学は記念すべき70回目の出場となりました。全国の校友、育友そして在学生、教職員の「頑張れ専修」の応援にも熱が入ったことでしょう。

ラインと対面を併用した授業を継続せざるを得ませんでした。更に学生生活を送るうえで大切な文化・スポーツ等の活動に制限が生じて、サークル活動の継続すらも危ぶまれる状況に陥りました。今年こそは、キャンパスに学生が集い、交流が活性化し、そして、伝統ある各部・サークルの輝きがあふれていく、そうした実りある学生生活を送れる年になることを願っております。

学生支援「教育は止めない」

本学の創立142年の歴史と伝統は、多難を乗り越えてきた証しでもあります。その困難を乗り越える原動力の一つが、その時々々の校友の献身的な働きでした。この度、本学の卒業生で大学発展に長い間尽力されてきました日高義博元学長・前理事長が、学校法人専修大学第9代総長に就任されました。

学創立150年、石巻専修大学創立40年に向けた両大学の発展に寄与いただけるものと大いに期待しております。

昨年11月の役員改選を経て新たな役員体制となりましたが、大学を取り巻く環境が厳しさを増す中、日高総長をはじめ、教職員が一丸となり本学のブランド力向上に取り組

任されました。総長誕生は三十数年ぶりであり、日高総長には、私学の自主性や自律性が問われる中、建学の精神を護持し、教育・研究により社会に有為な人材を輩出し続けるため、本学の歴史と伝統を踏まえた大学力の発信をさせていただくことで、専修大

み、更なる発展につなげていきたいと考えています。

今年、専修大学と石巻専修大学が創立140周年記念事業として取り組んできました各学部の教育改革、学部学科の再編、神田キャンパスの拡張整備などの成果を社会に示して

いく年になります。オンライン授業のノウハウを活用した教育の在り方と学生サービスの在り方についても新たな展開が必要となるでしょう。また、佐々木重人専修大学学長、尾池守石専修大学学長の下、SDGsやカーボンニュートラルなど地球の視野に立ったテーマのほか、全学横断的に数理・データサイエンス・AI教育プログラムへの取り組みを進めてまいります。更に次

世代に向けた社会連携教育、産学連携教育、イノベーション教育、リーダースhip教育、東南アジアを含むグローバル連携教育等の積極的な推進も図っていく所存です。

予測不可能な時代ですが、今年も佐々木学長、尾池学長と共にいかなる事態が生じても「教育は止めない」という大学本来の役割を果たし、学生支援の強化に取り組んでまいります。何よりも教職員、学生と共に、明るく笑顔にあふれた、活気あるキャンパスを取り戻し、学生の思いを実現する大学づくりをオール専修で進めてまいります。

私立大学は独自の理念と目標を定め、それに向かって邁進している。年々度ごとに発表される活動報告書を読むことで、大学の運営状況がほぼ正確に把握できるようになっている。

それに対して大学の決算書は難解である。それでも大学を知るうえで重

小藤康夫 著
「私立大学の会計情報を読む」
成長の源泉を求めて
会計情報を読む
成長の源泉を求めて

世間一般の物差しで大学の比較といえは偏差値を取り上げる場合が多いが、ここではまったく別の視点からの比較が試みられている。財務指標に注目すれば、偏差値とはまったく違う姿が見えてくる。興味深い現象である。
(創成社・2200円)
著者(こふじ・やすお) 専修大学教授、金融論、金融サービス。

学長 佐々木 重人

謹んで新春のお慶びを申し上げます。コロナ禍は、昨秋以降は新規感染者数が抑制傾向にあったものの、現在再び増加に転じています。新たな変異株に関する報道も目立ちますので、気を抜くわけにはいきません。これから迎える入試シーズンでは、受験生や本学関係者が安心できる実施体制を整えていきたいと思

第一は、SDGsへの取り組みの推進についてです。すでに本学は、21世紀ビジョン「社会知性の開発」を具体的に「見える化」するため、SDGsの達成に向けた活動を

第二は、教学マネジメントの促進についてです。2022年度から、学士課程科目ごとにカリキュラム・マップが開示され、学びの質や目標がディプロマ・ポリシーとの関連でひも付けされると同時に、本学での学修成果を点検するアセスメントプランに生

で必須となるスキルを基礎レベルから、各学部の専門領域において適用される応用レベルまでをカバーする体系的カリキュラムの「見える化」を図ります。

第四は、二部のレガシーを継承する新たな取り組みについてです。22年度は、二部学

生募集を停止してから4年目を迎えます。そこで、23年度以降、これまで二部教育に充てていた教育力を新たな教育サービスに振り分けるための本格的な議論を始めたいと思

講義や演習科目の創出を目指すと同時に、二部のレガシーを継承する社会人向けリカレント教育もその検討対象になると思われれます。

第五は、キャンパスDX構想についてです。学生の学修やキャリア形成及び教員の教育研究や職員の事務業務をデジタルベースで一元的に支援する「スマートキャンパス」

第六は、神田・生田キャンパスのプランディングについてです。商学部が移転した神田キャンパスでは、学生や教職員が神田神保町に徐々に溶け込み、地元とのさまざまなコラボの動きが活発化しつつあります。さらに発信力と活力ある新学生街の創出(神田神保町カルチャータウン)を演出したいと考えます。また生田キャンパスでは、前述の

第七は、就職活動や課外活動への支援についてです。コロナ禍のなかで、就職活動で頑張っている学生、司法試験・公認会計士試験などの難関国家試験ならびに国家・地方公務員等のキャリアにチャレンジしている学生、また体育会をはじめとする課外活動で努力している学生へのサポート体制をしっかりと維持していきたいと思われれます。

以上、今年もよろしくお願いたします。最後になりましたが、新春恒例の「箱根駅伝」では、専大チームへの熱い応援に感謝申し上げます。

精力的に諸課題に取り組む

継続してまいります。本年は、これまでの活動に加えて、専修大学が組織として取り組むSDGsを本格化する年にしたいと考えています。とりわけ、本学は、「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加する大学として、キャンパス・地域・人材育成に関わる取り組みを強化したいと思

かされることとなります。

第三は、全学部におけるデータサイエンス教育の推進についてです。本学は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」への申請も予定し、22年度から、全学部の学生を対象とした「データサイエンス教育プログラム」を開始します。ソサエティ5.0

6、7時限目の活用方法は、多岐に及びます。海外を含む遠隔地から発信されるオンライン授業など、オリジナリティーあふれる新たな

の構築プランを決定し、23年度から逐次、実装化できるように努力したいと思

「データサイエンス教育プログラム」の進捗に合わせて、教員間や産官学で連携したデータサイエンス研究の拠点(生田データサイエンスビル)作りも支援したいと思

復元力と幸福経営を生むリスクマネジメント
上田和勇 編著

リスクは常に形を変えて繰り返され、関係者の成長が見られない、あるいは幸福感が醸成されない企業や組織の価値を減損に至らしめる。

こうした悪循環を断ち切るために、組織や企業はどのようにしてレジリエンス(危機からの復元力)強化とステークホル

ダーの幸福醸成のため、リスクマネジメントを行うべきかという視点から書かれたのが本書である。

リスクマネジメント、保険論、経営学、法学など多様な視点から、日本リスクマネジメント学会およびソーシャル・リスクマネジメント学会の会

編著者(うへだ・かずお) 名誉教授。リスクマネジメント、保険論。



歴史と伝統 未来へ

明治期の正門「黒門」の後方には2020年に完成した140周年記念館がそびえる=神田キャン

